

企業レポート 社長インタビュー

社長さん

[スズキハイテック 株式会社](#) 代表取締役社長 鈴木 喜代壽 氏

会社の概要



写真1 会社の外観

- (企業名) スズキハイテック 株式会社
- (代表者) 鈴木 喜代壽 氏
- (住所) 山形市銅町二丁目2番30号
- (電話) 023(631)4702
- (社員数) 156名
- (業務内容) 各種素材・部品への金属表面処理
及び加工、環境計量証明事業
- (加工内容) 錫・はんだ・鉛・ニッケル・クロム
銅・銀・合金めっき各種
テフロンコーティング・塗装
アロジン処理・クロメート処理
- (主要製品) 電子部品・電子材料・通信部品
機械加工部品・自動車部品
表面実装部・半導体など多数

聞き手

[山形県立山形工業高等学校](#) 環境システム科2年 小笠原 健太 ・ 志田 建太

- (司会) インターンシップでは、大変お世話になりました。有り難うございます。
それでは社長さん、これよりインタビューをはじめたいと思います。
インタビューをするのは、御社で職場体験を経験した小笠原君と志田君です。
小笠原君、志田君、インタビューを始めてください。



写真2 鈴木社長を囲んで

- (小笠原) 御社が設立されたのは、今から何年前ですか。

原) その頃は、どんな時代でしたか。

(社長) 私の祖父が、大正3年(1914年)に山形市上町に設立しました。今から93年前のことです。その頃は第1次世界大戦があり、大変な時代であったとのことです。

(志田) 御社は、どんなことがきっかけで設立されたのですか。

(社長) 私の祖父は、仏壇の金具をつくっていて、綺麗に仕上げるために電気メッキ(銅メッキ)を学んだとのこと。趣のある古さを出すために、硫化ソーダを使ったとのこと。また当時、移動手段として利用度が高まっていた自転車のハンドルのさび止めとして、ニッケルメッキもしていたとのこと。

(小笠原) 御社の主な製品は、どんな製品ですか。

(社長) 半導体のリードやフレームなどにメッキしています。もう一つは、自動車部品へのメッキです。冬場になると道路に塩化カルシウムなどの消雪剤をまくため、錆びたり腐食したりするので、それを防止するためにメッキをします。回転部分にはその摩擦に耐えるために、固い金属をメッキしています。

(志田) 製造された製品は、主にどんな会社に納入されますか。

(社長) 自動車部品として日産やホンダなどの自動車メーカーのほか、電子部品としてパソコン・携帯電話・家電会社などに納入されます。環境や品質については、特に配慮して製品づくりをしています。



写真3 インタビュー風景

(小笠原) 日本以外では、どんな国に輸出されていますか。

(社長) 特定の国ということではなく、グローバル化の時代なので、間接的には部品としてあらゆる国に輸出されています。

<国内生産量、日本一の製品>

(志田) 御社の技術で、他社にはないと思われる技術はどんな技術ですか。

(社長) 錫ビスマスの合金メッキを日本国内で一番多くこなしています。錫ビスマスは、有害物質の規制を比較的受けません。鉛を使わない表面処理をはじめたのは、日本で一番早いです。

(小笠原) 社長さんは、どんなきっかけでこの仕事に就かれたのですか。

(社長) 祖父から父へ受け継がれていたもので、自分も家業を継ぐんだと思っていました。だから、迷わず山形工業高校・工業化学科への進学を決め、この仕事に就くことになりました。

＜全国鍍金工業組合連合会の会長に就任＞

(小笠原) 社長さんは、全国鍍金工業組合連合会の会長さんになられたそうですが、それはどんな会ですか。会長さんとしてのお仕事は何ですか。

(社長) 今年（2007年）5月29日の総会で、会長に就任しました。
1766社が加盟していて、東北からの会長就任は初めてのことです。
私が連合会の役員になった24年前は、3048社が加盟していましたが、事業規模の拡大にともない吸収合併が続き、現在は1766社が加盟しています。

1. 環境規制にきちっと順応していくこと
2. グローバル化に対応するとともに、会員に様々な情報を開示していくことなど。6つの常設委員会があり、環境についての問題点を整理し、国（環境省などの省庁）に進言したり、要請したりすることなど、内容は多岐にわたります。

＜世界のスタンダードに＞

(小笠原) 御社のモットーは何ですか。

(社長) これまでは、日本のメッキ業界でスタンダード（模範的な）工場になることでした。今は、世界のスタンダードになることをモットーに頑張っています。

＜責任・優しさ・思いやり・・・＞

(志田) 社長さんは常日頃、社員の方に対して、どんなことを期待しておられますか。

(社長) 仕事には責任をもちしっかりこなすこと。必ず確認すること。優しさを忘れないこと。力を合わせ頑張ること。他人を思いやること。物づくりは人づくりである。

(小笠原) 社長さんの高校時代は、どんな高校生でしたか。

(社長) 剣道に明け暮れていました。沢山のいい仲間に恵まれました。
クラスは科単位なので、生徒も担任も変わらない。仲間とのつながりも強まり、絆も深かった。卒業後も交流しているし、大切にしています。クラスが変わらないというのは、いいことです。

私が在籍していた頃は、大正ルネッサンス風の建物がありました。古い建物は、大切にすべきです。シンボルになるし絆を深めるのに役立ちます。

(志田) 高校生の頃、どんな夢をお持ちでしたか。

(社長) 先ほども申しましたが、私は剣道に打ち込んでいました。剣道で日本一になることが夢でした。この夢は、高校時代には叶わなかったが、毎日それを目指して頑張っていました。
昭和36年当時、大学日本一であった法政大学の剣道部が、山形で合宿をするため来県したことがあって、その練習風景を見て法政大学への進学を決意し、頑張って入学を果たすことができましたのです。



夢を持ち続けることが大切です。思いを大切に持ち続けられ、大抵のものは叶えられる。私は、昭和60年に道場をつくりました。OB大会に現在も出場しています。思わなければダメです。

写真4 インタビューを終えて

<天命と思える仕事を見つけなさい>

(小笠原) 働くことについて、必要と思われることを教えてください。

(社長) 生きることは戦いです。何のために働くのか。仕事の内容が好きなことであればどんな辛いことでも耐えられます。これが自分の仕事だと決めたら、天命だと思わなければなりません。
一生懸命に打ち込むことが大事で、そのことが人に感動を与えられる。そして、社会を発展させるという責任と気概をもつことが大切です。

<五常の徳・・・「仁・義・礼・智・信」>

(志田) これからの高校生に、求められるものをお聞かせください。

(社長) 責任感を持つことが大切です。昔、修身というのがありました。その中で古くから伝えられてきた生き方についての教えがありました。「仁・義・礼・智・信」という五常の徳という教えです。
「仁」というのは「優しさ、人を思いやる心」のことで、慈しみや優しさをもちなさいということである。
「義」というのは「人助けの心、義侠心」のことで、正しいと思うことは貫き通しなさいということである。
「礼」というのは「礼儀、礼節」のことで、挨拶などをしっかりしなさいということである。
「智」というのは、「善悪を正しく判断できる智恵」のことで、正しいことと悪いことを判断できる力を持ちなさいということである。
「信」というのは、「人から信頼されるような人になること」で、人を信じること嘘をつかないこと、言葉と行動を一致させなさいということである。どんなに時代が変わろうとも徳を磨いていくことが、人には必要だと私は思います。

社長インタビューを終えて

(小笠原 健太)

初めての社長インタビューということで、とても緊張しました。でも鈴木社長さんは、とても明るく優しく対応してくださったので、緊張がほぐれ質問しやすかったです。また、質問に対して補足も含めて詳しく説明してくださったので、理解もできたしまとめやすかったです。

インタビューをまとめていて、様々なことを考えさせられましたが、「どんなに時代が変わろうとも、徳を磨いていくことが人には必要だ」という言葉は、特に心に響きました。
「五常の徳」の教えを胸に、将来に向け頑張っていきたいと思います。

（志田 建太）

今回の社長インタビューで、社会に出て生活する上で大切なことを数多く学ぶことができました。「仕事には責任をもつこと。優しさを忘れないこと。力を合わせ頑張ること。他人を思いやること。物づくりは人づくり」「一生懸命に打ち込むことが大事で、そのことが人に感動を与えられる」「思いを大切に持ち続けければ、大抵のものは叶えられる」など心に残るお話がいっぱいありました。

また、社長さんはいつも夢を持っておられて、その夢を実現するために、今も頑張り続けている姿に感動しました。社長インタビューで学んだことを生かし、大きな夢を持ち勉強に部活動に頑張っていきたいと思います。

私の体験した仕事

（業務名） 1、ジェットホーニング（J/H）業務 2、メッキ体験。

（内容） 半導体を組み込まれた製品には、樹脂ばりというものがついていてそれがついてると、うまくメッキができないという原因になる。そこで、これを取り除くために、ジェットホーニングという作業をする。この作業は、高圧水を噴射し樹脂ばりを取り除いたり、半導体の凹凸を少なくするという作業である。

<インターンシップ（就業体験学習）を終えて>

（小笠原 健太）

私は、スズキハイテック株式会社で、インターンシップの体験をしました。初めての就業体験学習ということでとても緊張しましたが、説明して下さった課長さんが、会社の仕組みや概要について優しく丁寧に教えてくださったので、ほどよい緊張感をもちながら仕事に臨むことができました。



写真5 現場体験中（小笠原）

私が配属されたのは、ジェットホーニングという仕事場でした。この仕事は、半導体についている樹脂ばりをとるという仕事で、機械から流れてくる半導体をカセットという洗浄脱水機にかけ、洗浄された半導体をケースに詰めるという内容でした。作業そのものは簡単そうでしたが、半導体の向きなどを間違えると返品されるとお聞きし、少々驚かされました。作業中は、製品の枚数が合わなくて数えなおしたり、変形しているものを直したりまた粗悪品を取り除いたり、見た目以上に忙しい作業でした。

二日目は、初日の作業とは逆の作業で半導体を機械に流し込むというものでした。この作業の難しさは、半導体を一定の向きに一定の間隔で、機械に流し込まなければならないという点にあります。半導体の流し込みが早すぎると機械がエラーを起こしたり、機械が停止したりすることにつながります。これとは逆に半導体の流し込みが遅すぎると、ノルマが達成できなくなるという繊細な作業です。この他にも見た目は全く同じように見えても中身が違うものもあり、間違えると大変なことになります。ですから、常に集中力を保っていなければなりません。長い時間この状態を保ち作業を続けるというのは、とても大変でした。

三日目は、半導体をただ機械に流すという作業だけでなく、ジェットホーニング処理をしながら、製品伝票をつけるというものでした。半導体の型番号や不良品の数量を書き留めながら、同時に伝票もつけるという、骨の折れる仕事でした。

この日は最終日ということもあり、この会社の重要な仕事である「めっき処理」の体験させてもらいました。この「めっき処理」という作業は、数多くの工程から成り立っていました。主な工程を「コインへのめっき」を例にとって説明すると、まずコインについている脂質を取り除き、塩酸で脱色する。それにニッケルを付着させ、塩酸をつけ安定させる。さらに銅や光沢ニッケルをつけてから、最後に金でめっきする。それを乾燥させて完成するという数多くの工程があり、その工程の多さに驚きました。金属めっき処理は、表面にただ金属を付着させるだけだと思っていた私には、新鮮な驚きであったし勉強にもなりました。

今回の就業体験学習を通して、「どんな仕事も楽なものではなく、とても大変なことだ」ということを、強く実感する機会になりました。極あたりまえの感想かもしれませんが、こうしたことを実感するだけでも、私にとっては「働くことの意味」を考える上で、大変勉強になりました。今回の体験を今後の生活に生かしていくとともに、将来の進路を考える時に是非参考にしていきたいと思えます。

(志田 建太)

今回のインターンシップでは、仕事の大変さはもちろん、会社というのは数多くの仕事がかみ合うことで成り立っているということ、今まで以上に実感することができました。また、沢山の言葉で表せないことも学ぶことができました。

初日のスタートは、会社内の見学から始まりました。それぞれの職場では多くの人が働いていて、それぞれ違った仕事をしていました。どの仕事も、私には難しそうに見えましたが、働いているどの社員もたやすく作業をこなしていました。どの人もきっと、一生懸命勉強することで沢山の知識を持ち、多くの経験を積むことで沢山の技術を身につけたのだろうと思えました。その裏には、相当な努力があったのだろうと思えます。



写真6 現場体験中 (志田)

それに比べ私は、まだまだ努力が足りないと思えます。集中力に欠ける授業がしばしばある。集中力に欠けた授業からは、確かな知識や技術は身につけません。基礎的な力なしでは仕事には取り組みえないし、社会では認められないと思えます。その意味で今回の就業体験は、これまでの自分の学習姿勢を見直す、いい機会になったと思えます。

さて、実際の作業は半導体製品についての不要物を取り除くために、高圧水を吹き付ける機械を通し、出てきた製品を箱に詰めるという作業でした。製品を機械に通す作業では、製品を斜めに入れたり入れるテンポが速かったり、エラーになることがしばしばでした。また製品の箱詰め作業では、縦横がきちっと合っていないと製品を積み上げることができなくなったり、製品の縦横をあわせるということがとても難しいと思えました。はじめこの作業の説明をお聞きしたときは、とても簡単そうに見えましたが、実際やってみると大変なことが沢山あって、容易に見える作業の中にも多くのコツや技術が必要なんだと実感しました。

職場の人から、大切なことを学びました。それは、「仕事は自分のことだけ考えてはいけない。周りの人のことも考えないといい仕事はできない」ということです。普段の生活の中で周りを意識しながら生活するという事は少ない。大抵は、自分のことだけ考えて生活することの方が多い。そのことで、結果的に周りに迷惑をかけていることが、多いように思えます。物事に取り組むときは、目標に向かって多くの人と協調しながら進めないと目標は達成できないということ、この言葉から学びとることができました。また、様々なことに感謝しながら生活することの大切さも学びました。自分が今の生活を維持できるのは自分を取り巻く多くの人たちのお陰で、自分の力だけでは維持できません。これからは、少しでも感

謝の気持ちを忘れないような生活をしていきたいと思います。

今回のインターンシップでは沢山のことを学びましたが、今回学んだことをこれからの生活の中でどう生かしていくかが重要になってくると思います。そうでないと今回の就業体験学習の体験が生きていかないし、意味のないものになってしまうからです。今回の様々な経験を将来の社会生活に生かせるよう、一生懸命頑張っていきたいと思います。